

作成日: 2013年09月05日

改定日: 2016年3月10日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ナブエース
会社名	株式会社ナブ・コーポレーション
住所	東京都中央区日本橋久松町11番6号 日本橋TSビル4階
電話番号	03-3662-8211
ファックス番号	03-3662-8212

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	分類できない
	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(長期間)		区分外
オゾン層への有害性		分類できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	該当なし
注意喚起語	該当なし
危険有害性情報	該当なし
注意書き 予防策	取扱い後はよく手を洗うこと。 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
対応	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
保管	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 5°C以上40°C以下の直射日光の当たらない屋内に保管すること。
廃棄	内容物/容器を廃棄する場合は、関係法令に基づき適正に処理すること。

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別

混合物

成分及び含有量

成分	官報公示整理番号(化審法)	CAS番号	含有量(%)
天然油脂	2-669	登録あり	12~15
乳化剤	登録あり	登録あり	4~7
水	対象外	7732-18-5	78~81

4.応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 必要に応じ、衣服をゆるめたり人工呼吸などの処置を行うこと。 症状が改善しない場合には、医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	付着物を布にて素早く拭き取り、汚染された衣類を取り除くこと。皮膚を多量の水と石鹼で洗い流すこと。 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある時には医師の診断を受けること。
目に入った場合	多量の水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 眼の刺激が続く場合は医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、直ちに医師の診断を受けること。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
応急処置をする者の保護	必要に応じ、保護手袋や保護眼鏡などを着用する。

5.火災時の措置

消火剤	粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
特有の消火方法	消火作業は可能な限り風上から行なう。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火を行なう者の保護	消火作業の際は保護具(呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡など)を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際は適切な保護具(呼吸用保護具、保護衣、ゴム手袋、長靴、眼鏡など)を着用し、 吸入や、直接接触を避ける。 作業中は換気を十分に行う。 漏出した箇所は滑りやすくなっている可能性があるため、転倒等に注意する。
環境に対する注意事項	漏出物を下水、河川、土壌など環境中へ漏出させてはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合は、布、オガクズなどで吸着させ取り除いた後、ウエス、雑巾などでよく拭き取る。 多量の場合は、土砂、布などで囲い流出を防止し、バキュームや吸収材などで回収する。 回収物は、都道府県知事の認可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
二次災害の防止法	周辺を立ち入り禁止にし、関係者以外を近付けないようにして二次災害を防止する。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、眼に入らぬよう適切な保護具を着用する。 適用法令に従った取扱方法を取る。
局所排気・全体換気	換気の良い場所で取扱う。 密閉された場所における作業の際は、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業を行う。
安全取扱い注意事項	取扱い後は手洗い、うがいをする。 容器を転倒、落下、衝撃を加える、または引きずるなどの乱暴な扱いをしないこと。 2.危険有害性の要約を参照のこと。
保管	
適切な保管条件	高温・低温を避け、5～40℃の屋内で密閉して保管する。 容器(缶)が錆びないように注意すること。
避けるべき保管条件	高温および凍結を避ける。
混触禁止物質	データなし
安全な容器包装材料	ポリエチレンなどの樹脂製容器、及びステンレスや防錆コーティングなど水分との接触により発錆しにくい金属製容器。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	屋内で作業する場合は、局所排気装置等により、作業者が暴露から避けられるような設備にすること。 取扱い場所付近に洗眼設備、シャワーを設ける。
管理濃度	設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具	作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用する。
手の保護具	不浸透性の保護手袋を着用する。
目の保護具	飛沫が飛ぶ場合には保護眼鏡またはゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	不浸透性の長袖作業着、防護靴などを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	白色液状(目視・25℃)
臭い	弱い特異臭
pH	6～8 (25℃)
融点・凝固点	0℃で含有する水が凍る
沸点、初留点と沸騰範囲	約100℃で含有する水が沸騰する
引火点	水を含んだ製品の状態では引火しない
自然発火温度	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(密度)	0.980～0.995(g/cm ³ 、25℃)
溶解性	水に易溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	室温で製品単独では安定。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	高温および凍結を避ける。(適正保管温度5～40℃)
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	データなし
急性毒性(経皮)	データなし
急性毒性(吸入)	データなし
皮膚腐食性及び刺激性	皮膚を刺激する可能性があるが、具体的なデータはない。 皮膚に付着したまま放置、もしくは体質により炎症を起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼を刺激する可能性があるが、具体的なデータはない。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	IARCによる評価分類に未掲載。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性、単回ばく露	データなし
特定標的臓器毒性、反復ばく露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12.環境影響情報

生態毒性	魚類急性毒性試験LC ₅₀ :100mg/L以上(OECD203,96時間)
残留性・分解性	生分解度70%以上(OECD301C,28日間)
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	高濃度で環境中に排出された場合、悪影響を及ぼす可能性がある。 本製品は従来の付着防止剤に比べ環境への影響は小さいですが、全く影響がないわけではありません。環境中への排出や漏洩はできるだけ少なくなるよう注意してください。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事の認可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 内容物を完全に除去してから、都道府県知事の認可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。 すすぎ後の水は残余廃棄物と同じ処理を行なう。

14.輸送上の注意

国際規制	
国連分類	該当なし
国連番号	該当なし
容器等級	該当なし
国内規制	
緊急時応急措置指針番号	171
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器に破損、漏れのない事を確認する。 転倒、落下などの荷崩れを防止する措置を確実にこなう。 容器に衝撃を与えないよう積込、輸送を行なう。 着火源から隔離する。 直射日光を避け、40℃以上となる鉄板、地面などに直接置かないこと。 適用法令に従った輸送方法を取る。 輸送時の温度は、7項の保管条件に準ずること。

15.適用法令

消防法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
化審法	特定化学物質、監視化学物質および優先評価化学物質に該当しない
化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働基準法	該当しない

製品を使用する地域の法規制に注意する。

16.その他の情報

出典	原材料メーカー発行SDS(MSDS) IARC Monographs 独立行政法人製品評価技術基盤機構ウェブサイト GHS分類データベース 社団法人日本化学工業協会 製品安全データシートの作成指針(2006)
----	---

記載内容は最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価についていかなる保証を成すものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任においてご使用くださるようお願いいたします。また、特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を十分に講じた上でご使用ください。当製品安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。